

| 教化名 | 年間授業時数 | 学年 |
|---------------------|----------------------------------|----|
| 保健体育 | 保健 19 時間 体育 98 時間 計 117 時間 | 1 |
| 授業形態 | 指導者名 | |
| 2クラス合同・3学年合同(縦割り授業) | 森 逸美・柏木 洋輝・丸川 勝己 | |

| | |
|---------------|---|
| 教科書(発行所) | 最新 中学校保健体育(株式会社 大修館書店) |
| 教科書以外の教材(発行所) | デジタル版中学体育実技 2025 版[クラウド版](株式会社 学研教育みらい) |

| | |
|--------|---|
| 目 標 | <p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。</p> |
| 学習のねらい | <p>《体育分野》</p> <p>1 体づくり運動 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解するとともに、目的に適した運動を身に付け、組み合わせることができるようにする。</p> <p>2 器械運動 技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技がよりよくできるようにする。</p> <p>3 陸上競技 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解し、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。</p> <p>4 球技 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的なボールや用具、バット操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする。</p> <p>5 武道 技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開することができるようにする。</p> <p>6 ダンス 感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流ができるようにする。</p> |

7 体育理論:運動やスポーツの多様性

運動やスポーツの合理的な実践を通して、楽しさや喜びを味わい、それらを生涯にわたる豊かに実践できるようにするとともに、見る、支える、知るなどの多様な関わり方を通して、生きがいや身近な文化と捉えることができるようにするためには、人はなぜ運動やスポーツを行うのかといった必要性や楽しさ、運動やスポーツを通じた多様な関わり方や楽しみ方について理解するとともに、運動やスポーツの多様性に関心を持ち、自分と運動やスポーツとの関わり方について、思考し、判断し、表現できるようにする。

《保健分野》

1 健康な生活と疾病の予防

(ア)健康の成り立ちと疾病の発生要因

健康は、主体と環境を良好な状態に保つことにより成り立っていること、また、健康が阻害された状態の一つが疾病であることを理解できるようにする。

(イ)生活習慣と健康

①運動と健康

運動には、身体の各器官の機能を刺激し、その発達を促すとともに、気分転換が図られるなど、精神的にもよい効果があることを理解できるようにする。

②食生活と健康

食事には、健康な身体をつくるとともに、運動などによって消費されたエネルギーを補給する役割があることを理解できるようにする。

③休養及び睡眠と健康

休養及び睡眠は、心身の疲労を回復するために必要であること、健康を保持増進するためには、年齢や生活環境等に応じて休養及び睡眠をとる必要があることを理解できるようにする。

④調和のとれた生活

心身の健康は生活習慣と深く関わっており、健康を保持増進するためには、年齢、生活環境等に応じた適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続けることが必要であることを理解できるようにする。

2 心身の機能の発達と心の健康

(ア)身体機能の発達

身体の発育・発達には、骨や筋肉、肺や心臓などの器官が急速に発育し、呼吸器系、循環器系などの機能が発達する時期があること、また、その時期や程度には、人によって違いがあることを理解できるようにする。

(イ)生殖に関わる機能の成熟

思春期には、下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となることを理解できるようにする。

(ウ)精神機能の発達と自己形成

①知的機能、情意機能、社会性の発達

心は、知的機能、情意機能、社会性等の精神機能の総体として捉えられ、それらは生活経験や学習などの影響を受けながら、脳の発達とともに発達することを理解できるようにする。

②自己形成

自己形成については、思春期になると、自己を客観的に見つめたり、他人の立場や考え方を理解できるようになったりするとともに、物の考え方や興味・関心を広げ、次第に自己を認識し自分なりの価値観をもてるようになるなど自己の形成がなされることを理解できるようにする。

| | | | |
|--|--|--|---------------------------------|
| | <p>(エ)欲求やストレスへの対処と心の健康</p> <p>⑦精神と身体の関わり 精神と身体には、密接な関係があり、互いに様々な影響を与え合っていることを理解できるようにする。</p> <p>⑧欲求やストレスとその対処 心の健康を保つには、適切な生活習慣を身に付けるとともに、欲求やストレスに適切に対処することが必要であることを理解できるようにする。</p> | | |
| <p>定期考査</p> | <p>出題方針</p> | <p>・教科書の内容を中心に、ノート・教材プリントなどから出題する。</p> | |
| | <p>範囲 (予定)</p> | <p>第1回考査</p> | <p>なし</p> |
| | | <p>第2回考査</p> | <p>体づくり運動・陸上競技・球技・ダンス・保健 など</p> |
| | | <p>第3回考査</p> | <p>なし</p> |
| | | <p>第4回考査</p> | <p>なし</p> |
| <p>年度末考査</p> | | <p>器械運動・武道・陸上競技・球技・保健 など</p> | |
| <p>評価の観点 ・評価の方法</p> | <p>・評価の観点は、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力など、③主体的に学習に取り組む態度、の3項目とする。</p> <p>《体育分野》</p> <p>・評価の方法は、自己評価・相互評価・レポート提出・運動技能テスト・出席状況など、により、総合的に観点別に評価する。</p> <p>・毎時間が評価の対象であり、数回の運動技能テストも行う。</p> <p>《保健分野》</p> <p>・評価の方法は、定期考査・提出したノートやレポートなどの記述内容、出席状況など、により、総合的に観点別に評価する。</p> | | |
| <p>先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など)</p> | <p>《体育分野》</p> <p>・更衣を早くして、授業には遅刻しない。</p> <p>・体調の自己管理をし、担当教師に申し出る。[体調が悪いときには付箋などを活用]</p> <p>・準備物を整えて、忘れ物をしない。</p> <p>《保健分野》</p> <p>・保体ファイルやノートなど、提出物を大切に使う。</p> <p>ファイルやノートなど記述内容の評価は大きいので、しっかりと考察して提出しましょう。</p> <p>・準備物を整えて、忘れ物をしない。</p> | | |

年間授業計画表（45分授業）

| 学期 | 月 | 学習内容 | 時数 | 学習のポイント |
|----|--------------------|-------------------------------|------------------------------|---|
| 前期 | 4 | ・体づくり運動(体ほぐしの運動) | 6 | ・自己の体に気付き、仲間と交流する。 |
| | | ・体づくり運動(体力を高める運動) | 6 | ・上級生と下級生の交流を深める。 |
| | 5 | | | ・互いに協力しながら、体力を高める。 |
| | | ・陸上競技(短距離走・リレー) | 6 | ・安全に留意し、基本技術を習得する。 |
| | 6 | ・運動やスポーツの多様性 | 4 | ・互いに協力しながら、手際よく測定できるようにする。 |
| | | ・球技(バレーボール) | 8 | ・運動やスポーツについて理解を深める。 |
| | | | | ・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。また、練習やゲームを行う。 |
| | | ・ダンス(現代的なリズムのダンス) | 4 | ・互いに協力しながら練習を行う。 |
| | 7 | ・健康な生活と疾病の予防 | 4 | ・生活の中で、改善や実践の仕方を理解する。 |
| | | 《第2回考査》 | | |
| | ・ダンス(フォークダンス) | 6 | ・互いに協力しながら練習を行う。 | |
| 8 | | | | |
| 9 | ・器械運動(マット運動・跳び箱運動) | 6 | ・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。 | |
| | ・武道(剣道) | 6 | ・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。 | |
| | ・健康な生活と疾病の予防 | 4 | ・生活の中で、改善や実践の仕方を理解する。 | |
| 後期 | 10 | ・武道(剣道) | 12 | ・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。 |
| | | ・器械運動(マット運動・跳び箱運動) | 12 | ・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。 |
| | 11 | ・心身の発達と心の健康 | 11 | ・生活の中で、改善や実践の仕方を理解する。 |
| | 12 | | | |
| | 1 | ・陸上競技(長距離走) | 10 | ・自分の目標を立て、ペースを設定して安定したタイムで走ることを最上位の目標とする。 |
| | | ・球技(男子:サッカー) (女子:バスケットボール) | 12 | ・安全に留意し、互いに協力しながら、基本技術を習得する。また、練習やゲームを行う。 |
| | 2 3 | 《年度末考査》 | | |
| | 総時間数 | 117 | 体育 98時間 保健 19時間 | |

| | | | |
|--------------|--------|--------|----|
| 教科名 | | 年間授業時数 | 学年 |
| 技術・家庭科（技術分野） | | 39 | 1 |
| 授業形態 | 指導者名 | | |
| 一斉授業 | 木挽屋 菜摘 | | |

| | |
|---------------|-----------------|
| 教科書（発行所） | 技術・家庭 技術分野（開隆堂） |
| 教科書以外の教材（発行所） | 技術・家庭ノート（開隆堂） |

| | | | |
|--|---|---|---|
| 目 標 | ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。 | | |
| 学習のねらい | <p>A 材料と加工の技術</p> <p>(1) 生活や社会を支える材料と加工の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解すること。</p> <p>イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。</p> <p>(2) 生活や社会における問題を、材料と加工の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができること。</p> <p>イ 問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること</p> <p>(3) これからの社会の発展と材料と加工の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。</p> <p>イ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること。</p> | | |
| 定期考査 | 出題方針 | 教科書の内容を中心に、技術・家庭ノート、教材プリントなどから出題する。 | |
| | 範 囲 (予定) | 第1回考査 | 実施しない |
| | | 第2回考査 | 生活や社会における技術の役割 A 材料と加工の技術 ・ものづくりの工夫と進め方・材料・設計・製作（けがきまで） |
| | | 第3回考査 | 実施しない |
| | | 第4回考査 | 実施しない |
| 年度末考査 | | A 材料と加工の技術 ・製作（切断から）・材料と加工に関する技術とわたしたち | |
| 評価の観点・ 評価の方法 | <p>○評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3項目である。</p> <p>○具体的な評価は、定期考査、技術・家庭ノート、授業中での作品、教材プリント、レポートなどを適正に活用して総合的に行う。また必要に応じて自己評価も取り入れる。</p> | | |
| 先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など) | <p>技術は、実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやコンピュータの活用や情報モラルに関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、ものづくりや情報に関する学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにかされる技術的素養を身に付ける学習です。</p> <p>技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を身に付けることが大切です。学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにかされる技術的素養を身に付けましょう。</p> | | |

年間授業計画表(45分授業)

| 学期 | 月 | 学習内容 | 時数 | 学習のポイント | |
|----|---------------------|--|--|---|--|
| 前期 | 4 | ○ガイダンス ・技術とわたしたちの生活 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の学習の振り返り。 ・身近な生活にはどのような技術があるかを知る。 ・技術が生活の向上や産業の発展に影響を及ぼしてことを知る。 ・持続可能な社会の必要性和技術とのかかわりについて知る。 | |
| | | ○情報の技術 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みを知る。 ・情報に関する技術の適切な評価・活用について考える。 | |
| | 5 | ○材料と加工の技術 ●ものづくりの工夫と進め方 ・製品の工夫と技術の進歩 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・技術分野で3年間を見通した学習内容をイメージする。 ・技術の進歩について考える。 ・ものづくりの進め方について知る。 | |
| | 6 | ●材料 ・さまざまな材料 ・材料の特徴 ・材料と環境のかかわり | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある製品に使われている材料の種類を知る。 ・木材・金属・プラスチック、それぞれの特徴を知る。 ・製品の用途や使いやすさを考える。 ・材料と環境のかかわりを知り、材料の使い方について考える。 | |
| | 7 | ●設計 ・設計の進め方 ・使用の目的と製品の決定 ・材料、機能、構造を考える ・加工方法、接合方法と仕上げ方法を考える ・製図 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりに取り組むときに必要な設計の進め方を理解する。 ・使用の目的から、大きさ、使いやすさ、などの機能を考える。 ・じょうぶにするための構造を理解し、製作品の構造を考える。 ・さまざまな種類の材料の特徴を知る。 ・さまざまな加工法を知り、製作品の加工方法を考える。 ・接合方法を知り、製作品の接合方法を考える ・作品を図に表す方法を理解し、構想を図に表す。 | |
| | 9 | 《第2回考査》 | | | |
| | | ●製作 ・製作の進め方 ・部品表と工程表 ・けがき | 22 | <ul style="list-style-type: none"> ・製作品の製作の進め方を理解する。 ・部品表、材料取り図、工程表を書く。 ・けがきの役割と、切りしろ、削りしろの必要性を理解してけがく。 | |
| | 後期 | 10 | ・切断、切削 ・穴あけ、ねじ切り ・部品の検査と修正、組立て | | <ul style="list-style-type: none"> ・のこぎりの構造や仕組みを理解し、正確にのこぎりびきをする。 ・仕上がり寸法線まで木材を削る技術を理解し、正確に削ることができる。 ・穴あけの仕組みを理解し、正確な穴あけをする。 ・さしがね、直角定規で部品の検査と修正をする。 ・接合方法と手順を確認しながら正確に組立てをする。 ・製作品の表面や角の仕上げをする。 |
| | | 11 | ・表面と角の仕上げ | 3 | |
| 12 | | ●材料と加工に関するわたしたち | | <ul style="list-style-type: none"> ・材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割について考え、理解を深める。 | |
| 1 | | ・社会・環境とのかかわり ・材料と加工に関する技術とわたしたちの未来 | 1 | | |
| 2 | | 《年度末考査》 | | | |
| | ●学習のまとめ ・製作の振り返り | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・材料と加工に関する技術を適切に評価し、活用しようとする態度を身に付ける。 ・材料と加工に関する技術の学習を振り返り、技術との付き合い方を考える。 | | |
| | 総時間数 | 39 | | | |

| | | | |
|-----------------|--|---------------|-----------|
| 教科名 | | 年間授業時数 | 学年 |
| 技術・家庭科 (家庭分野) | | 39 | 1 |
| 授業形態 | | 指導者名 | |
| 前期：一斉授業 後期：一斉授業 | | 小山有紀 | |

| | |
|-----------------------|------------------------------|
| 教科書 (発行所) | 技術・家庭 家庭分野 (開隆堂) |
| 教科書以外の教材 (発行所) | 中学校技術・家庭科用 技・家ノート 家庭分野 (開隆堂) |

| | | | |
|---|---|-----------------------------------|---|
| 目 標 | <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする 実践的な態度を養う。</p> | | |
| 学 習 の ね ら い | <p>A 家族・家庭生活</p> <p>(1) 自分の成長と家族・家庭生活</p> <p>ア 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。</p> <p>B 衣食住の生活 (食生活)</p> <p>(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 生活の中で食事が果たす役割について理解すること。</p> <p>(イ) 中学生に必要な栄養の特徴が分かり、健康によい食習慣について理解すること。</p> <p>イ 健康によい食習慣について考え、工夫すること。</p> <p>(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的特質について理解すること。</p> <p>(イ) 中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解すること。</p> <p>イ 中学生の1日分の献立について考え、工夫すること。</p> <p>(3) 日常食の調理と地域の食文化</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解し、適切にできること。</p> <p>(イ) 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解し、適切にできること。</p> <p>(ウ) 材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。</p> <p>(エ) 地域の食文化について理解し、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできること。</p> <p>イ 日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。</p> | | |
| 定 期 考 査 | 出題方針 | 教科書とノートの内容を中心にプリント、ワークシートからも出題する。 | |
| | 範 囲 (予定) | 第2回考査 | ・家族・家庭生活 (様々な家族・家庭まで) ・人間にとっての食事～中学生に必要な栄養 |
| | | 年度末考査 | ・日常食の調理と地域の食文化 ・献立づくり |
| 評価の観点・ 評価の方法 | <p>・評価の観点は家庭科の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点とする。</p> <p>・授業への取り組み方、発表・プレゼン・レポート、ワークシートの記述等から総合的に評価する。</p> | | |
| 先生からのアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートのとり方など) | <p>・忘れ物をしない。 ・時間を守る。 ・人の話を集中して聞く。</p> <p>・課題をきちんと行い提出する。 ・学習内容を家庭で実践する。</p> <p>・自らの家庭生活を見つめ、家庭生活に対する課題や考えをもつ。</p> | | |

年間授業計画表(45分授業)

| 学期 | 月 | 学習内容 | 時数 | 学習のポイント |
|----|----|-----------------|----|---|
| | 4 | ○家庭分野のガイダンス | 1 | ・小学校家庭科の学習をふり返るとともに、3学年間の学習内容の見直しをもつ。 |
| | 5 | 1 今の自分とこれから | 1 | ・自分の成長と家族や地域の人びとのかかわりと自分自身の理解を深める。 |
| | | 2 家庭のはたらきと家庭の仕事 | 1 | |
| | | 3 様々な家族・家庭 | | ・家庭での活動を考え、家族・家庭の基本的な機能について理解する。 |
| | | ①多様な家族 | 1 | ・自分や家族の生活は家庭内や家庭外の活動が支えていることに気づく。 |
| | | ②多様な家族関係 | 1 | |
| | 6 | 1 人間にとっての食事 | | ・食事の役割について理解し、毎日の食事に関心をもつ。 |
| | | ①食事の役割 | 1 | ・健康に良い食事について学び、規則正しく食事をとることの重要性を理解する。 |
| | | ②毎日の食習慣と健康の基本 | 1 | |
| | | ③食事の役割と調理 | 1 | |
| | 7 | 2 食品と栄養素 | | ・食品は栄養的特質により食品群に分類されることを理解する。 |
| | | ①食品と栄養素をつなぐ | 2 | ・五大栄養素の体内ではたらきを理解する。 |
| | | ②栄養素のはたらき | 2 | |
| | | 3 中学生に必要な食事 | | ・中学生の時期の身体的特徴を理解し、中学生に必要な栄養の特徴がわかる。 |
| | | ①中学生の発達と必要な栄養 | 2 | ・中学生が1日にとりたい食品と分量を知る。 |
| | | ②栄養バランスを目で見て判断 | 2 | ・1回の食事を目で見て栄養のバランスがとれているか判断できるようにする。 |
| | | 〈第2回考査〉 | | |
| | 8 | 5 献立づくり | 4 | ・各食品群の食品を組み合わせ、栄養バランスのとれた1日分の献立を考案することができる。 |
| | 9 | 4 日常食の調理と地域の食文化 | | |
| | | ②生鮮食品の選択と保存 | 1 | ・生鮮食品の特徴がわかり、目的に応じて生鮮食品を選択・保存できる。 |
| | | ⑥加工食品の選択と保存 | 2 | ・目的に応じて加工食品を選択できる。 |
| | 10 | ③肉の特徴と調理 | 1 | ・肉の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、肉を調理することができる。 |
| | | ④魚の特徴と調理 | 1 | ・魚の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、魚を調理することができる。 |
| | | ⑤野菜の特徴と調理 | 1 | ・野菜の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、野菜を調理することができる。 |
| | | ⑦受け継がれた食文化 | 2 | ・地域で生産される食材を知り、それを使う意義と和食の調理を理解する。 |
| | 11 | ①調理の計画 | 2 | ・調理の流れと手順がわかり、計画を立てることができる。 |
| | 12 | ○調理実習 | | |
| | | ①しょうが焼き他 | 2 | ・肉の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、肉を調理することができる。 |
| | | | 2 | ・野菜の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、野菜を調理することができる。 |
| | 1 | ②ホイル焼き他 | 2 | ・魚の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、魚を調理することができる。 |
| | | | 2 | ・野菜の特徴や調理上の取り扱い方がわかり、野菜を調理することができる。 |
| | 2 | 6 持続可能な食生活 | 2 | ・持続可能な食生活を送るために食生活を工夫することができる。 |
| | | 〈年度末考査〉 | | |
| | 3 | ○生活の課題と実践 | 3 | ・今まで学習してきた「衣食住の生活」の中からほかの内容とも関連させて課題を設定して、課題解決に向けて計画を立て実践できる。 ・実践したことをまとめ、発表し、よりよい生活にするための新たな課題を見つけた実践につなげられる。 |
| | | 総時数 | 39 | |

| | | | |
|------------|--|--------------------|----|
| 教科名 | | 年間授業時数 | 学年 |
| 英語（英語・英語C） | | 176 | 1 |
| 授業形態 | | 指導者名 | |
| 一斉授業 | | 高木由貴・Kevin Phiefer | |

| | |
|---------------|--|
| 検定教科書（発行所） | NEW HORIZON English Course 1（東京書籍） |
| 教科書以外の教材（発行所） | Listening Compass（Z会編集部） 実力練成テキスト1（文理） 中高一貫テキスト NEW TREASURE Stage1 Third Edition（Z会出版） NEW TREASURE 文法問題集1（Z会出版） Talk and Talk Book1（正進社） |

| | | | |
|--|---|---|--------------------------------|
| 目標 | 外国語（英語）によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり）（発表）」、「書くこと」の言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。 | | |
| 学習のねらい | <ul style="list-style-type: none"> • 言語の4技能5領域（「聞くこと」「話すこと（やりとり）（発表）」「読むこと」「書くこと」）をバランスよく学習する。 • 150語程度のまとまった英語を聞いて、その内容を理解することができる。 • 質問・応答・紹介・言い換え・論理的な自己表現などができる。 • 200語程度のまとまった英語を読んで、その内容を理解することができる。 • 基本的な文法・語彙を使って、100語程度のまとまった英語を書くことができる。 | | |
| 定期考査 | 出題方針 | 中高一貫テキストNEW TREASURE の内容を中心に、検定教科書にも触れながら、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。 | |
| | 範囲 (予定) | 第1回考査 | フォニックス・中高一貫テキストLesson1 検定教科書内容 |
| | | 第2回考査 | 中高一貫テキストLesson2～3 検定教科書内容 |
| | | 第3回考査 | 中高一貫テキストLesson4～5 検定教科書内容 |
| | | 第4回考査 | 中高一貫テキストLesson6～7 検定教科書内容 |
| 年度末考査 | 中高一貫テキストLesson8～9 検定教科書内容 | | |
| 評価の観点・ 評価の方法 | <p>評価の観点は、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3項目とする。</p> <p>具体的な評価は、定期考査を中心に、単語テスト、単元テスト、授業プリントの記入と提出した内容、その他の提出物を含む課題の内容、授業への取り組み状況等を適切に活用して総合的に行う。</p> | | |
| 先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など) | <p>言葉の習得においてまず大切なのは、アウトプットです。音と文字の関係を押さえながら、「話すこと」「書くこと」によって学習内容を強化していきます。授業では「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を統合しながら行います。授業中はしっかりと声に出して発音してください。様々なコミュニケーション活動や音読練習に積極的に参加しましょう。また、ペアやグループによる学び合いを大切にしましょう。積極的に拳手をしてアウトプットし、授業で学んだことはファイルノートにしっかりとメモを取り、理解に努めましょう。家庭では、①音読復習②プリントの見直し③ワークで書く練習④テスト直し⑤単語を書く練習などの復習を行いましょう。そして、次の授業の予習①単語問へ②本文を書く練習してくるようにならねばなりません。毎日続けることが大切です。</p> <p>ALTの先生の授業（英語C）もあります。間違いを恐れず、学んだ英語をどんどんアウトプットしていきましょう。</p> | | |

年間授業計画表(45分授業)

| 期 | 月 | 学習内容 | | | 時数 | |
|----------------|---|--|---|--|--|----------|
| 前 | 4 | Unit 0 小学校のふり返り Unit 1 中学校生活の始まり | • I am / I like / Are you ? | Let's Start! Word Library Lesson 1 | • be動詞の文(文の形) | 18 |
| | 5 | 《 第1回考査 》 | | | | |
| | 6 | Unit 2 ALTのチェン先生 | • This(That) is~. • He (She) is~. | Lesson 2 My Classmates | • He(She)is~. /What is~? /形容詞、Who is~? A or B | 17 |
| | 7 | Unit 3 学校生活 | • When~? /Where~? • Who~? /How~? • It is 前置詞・・・ | Lesson 3 Welcome to Class, Yumi! | • 一般動詞の文 否定文・疑問文・ • What do you~? 代名詞 • 単数と複数 複数形 | 17 |
| | 8 | 《 第2回考査 》 | | | | |
| | 9 | Unit 4 ニュージーランドの学校との交流 Stage Activity 1 Unit 5 兄の文也の紹介スピーチ Unit 6 英語で巻語 | • What time~?、What+名詞~? • How many • Be.../Come.../Don't • 三人称単数現在形 • Fumiya lives in.../Does Fumiya...? Maria does not.. • Do you know him(her)~? • Whose ticket...? • It is mine (yours) . • Which...? | Lesson 4 My Friend Maria Lesson 5 At the Sports Store | • 一般動詞の文(3単現) 否定文・疑問文・疑問詞 Where~? /When~? • 所有代名詞 疑問詞 How+形容詞~? Whose~? /How many~? /Who~? /Which~? Whatを用いた疑問文 | 17 17 |
| | 10 | 《 第3回考査 》 | | | | |
| 後 | 11 | Unit 7 オンラインツアー Unit 8 国際支援・水問題 Stage Activity 2 | • 現在進行形 I am watching... Are you walking ? How(What)~? • 不定詞 • 感嘆文 How~! /What~! • look +形容詞 • 好きな有名人や尊敬する人について説明したり、たずねたりする • 一般動詞の過去形 | Lesson 6 At the Italian Restaurant Lesson 7 We're Playing Tennis Now. | • 命令文 • canを用いた文・否定文・疑問文 • 現在進行形 • 否定文・疑問文 • 現在形と進行形 | 17 17 |
| | 12 | Unit 9 冬休みの過ごし方 | | | | |
| | 《 第4回考査 》 | | | | | |
| | [冬季休業中] | | | | | |
| | 1 | Unit 10 中学校1年間の思い出 | • be動詞の過去形 • 過去形進行形 • 思い出に残った行事について発表する | Lesson 8 At South Elementary school Lesson 9 Tom Was Sick Yesterday. | • 一般動詞の過去形 • 過去進行形 • 特別用法のit • be動詞の過去形 • 過去進行形 • 特別用法のit | 17 17 |
| 《 年度末考査 》 | | | | | | |
| 3 | Stage Activity 3 My Favorite Event This year 補充学習 | | | | 5 | |
| 《 スプリングチャレンジ 》 | | | | | | |
| 総時間数 | | | | | 176 | |

第1学年 道徳年間指導計画

| | |
|---|------------------------------|
| 学校の教育目標 科学的思考力と創造力を身に付け、21世紀の社会を各分野で主体的に担っていくことができる生徒の育成 幅広い知識と国際的な感覚を身に付け、国際社会で活躍できる知的バランスのとれた生徒の育成 豊かな人間性をもち、自分を律し他を尊重しながら個性を伸長する意欲ある生徒の育成 | 教科書 検定教科書「中学生の道徳1」 |
| 学年の重点項目 基本的な生活習慣の定着を図り、自分で考え判断し、その行動に責任をもつ。 | |

| 月 | 主題名 | 内容項目 | 資料名 | ねらい |
|----|-----------------------|--------|------------------------|--|
| 4 | オリエンテーション | - | オリエンテーション | 一人ひとりが自分の考え方を伸び伸びと表現し、周りの人がそれを受け止められる力を培う。 |
| | 自主的な判断と行動 | A-(1) | 小さな勇氣 | 日常の中で「小さな勇氣」を出すことで得られる勇氣や成長について考えることを通して、自主的な判断と行動の積み重ねが自分らしい生き方や人間としての誇りをもたらすことに気づき、自分の人生を主体的に生きていこうとする道徳的実践意欲を培う。 |
| | 思いやりの心の温かさ | B-(6) | バスと赤ちゃん | お母さん、運転手、乗客のそれぞれが互いのことを大切にしている思いについて考えることを通して、人と人が互いを思いやる心の温かさに気づき、人間愛に満ちた、温かい思いやりの心を大切にすること道徳的心情を育む。 |
| | 礼儀の意義 | B-(7) | おかしな礼儀 | 「おかしな礼儀」の場面を話し合い、礼儀とはどのような考え方が大切なのかについて考えることを通して、礼儀は相手や人間として尊重する気持ちを表す場面があることに気づき、時と場に応じて適切な言動をとうとする道徳的実践意欲を高める。 |
| 5 | 目標に挑戦し続ける生き方 | A-(4) | 挑戦することに、生きる一羽生結弦 | 4回前半ジャンプへの挑戦を続ける羽生選手を支える思いについて考えることを通して、困難にじけなない強い意志の精神らしさを目標達成を目指すことの気高さや、自分の目標への挑戦から逃げず努力し続ける姿勢を大切にすること道徳的実践意欲を培う。 |
| | 自律的な行動と責任 | A-(1) | 真庭での出来事 | 真藤を乗り越えて真実を告白することを決断した健人への共感的な理解を通して、自律的な行動の難しさと大切さに気づき、自律的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつ道徳的実践意欲を高める。 |
| | 公平であること | C-(11) | ある日のバッターボックス | 生き生きとソフトボールをする0さんと子どもたちの姿に触れた筆者の心情について考えることを通して、誰に対しても公平であることのよさや大切さに気づき、差別や偏見をなくし、誰もが生き生きとできる社会の実現に努める道徳的実践意欲を養う。 |
| | 自分に恥じない生き方 | D-(22) | 魚の涙 | 筆者の主張を参考にしながら、いじめには道徳上どのような問題があるかを考えることを通して、さまざまな人間の弱さや穢さ、強さや気高さの存在に気づき、自己の良心に従って、人間らしさを大切に生きようとする道徳的実践意欲を培う。 |
| 6 | 目標を設定し、着実にやり遂げる | A-(4) | 目標は小唄みに | 小さな目標を設定し、それらを達成していくことで完走することができた筆者の心の動きを考えることを通して、目標達成が希望や勇氣を生み出すことに気づき、目標に向かって困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとする道徳的実践意欲を培う。 |
| | いじめを許さない | C-(11) | ヨシト | 同調圧力を乗り越えて、ヨシトへのいじめに毅然と立ち向かおうとする「僕」の思いについて考えることを通して、周囲に流されて見て見ぬふりをしてしまう心の弱さに気づき、正義と公正さを重んじ、いじめのない社会の実現に努める道徳的実践意欲を培う。 |
| | 節度を守る | A-(2) | 釣りの思い出 | 釣りに夢中になるあまり門限を破ってしまった「私」の心の動きについて考えることを通して、節度を守ることの難しさに気づき、節制心が安全や調和のある生活をしようとする道徳的実践意欲を培う。 |
| | 生命の脆弱性 | D-(19) | 自分の番 いのちのボタン | 「自分の番 いのちのボタン」を読んで、どのようなことを感じ、考えたかについて話し合うことを通して、生命が繊細で脆弱で、相先から受け継がれ、そして次へと引き継がれていくことに気づき、かたがえのない自他の生命を尊重する道徳的心情を育む。 |
| 7 | 誠実に責任をもつこと | A-(1) | ネット将棋 | 「僕」と敏和の対局への向き合い方や視座にある考え方を通して自律の精神の大切さに気づかせ、誠実に実行してその結果に責任をもつ道徳的実践意欲を養う。 |
| | 寛容の心 | B-(9) | 言葉の向こうに | インターネットでの自分のコミュニケーションのあり方を振り返る加藤子が、人それぞれさまざまなものの見方や考え方があり、それを受け入れることの大切さに気づくことを通して、寛容の心で他者と接していく道徳的実践意欲を養う。 |
| | 情報社会の規律 | C-(10) | ライオンが寝た | 現存にのけるデマを拡散する人々のさまざまな動機について考えることを通して、一人一人が情報発信に大きな社会的責任を負っていることに気づき、社会の秩序を守るために、法や規律を遵守し、規範意識を高めていこうとする道徳的実践意欲を培う。 |
| | 信頼できる友達 | B-(8) | 二人の通学路 | 幼なじみの健と藍子が、中学生になり周囲からの視線や自身の気持ちの変化に戸惑い、悩みながら成長していく姿を通して、同性間、異性間における友情関係のあり方について考え、豊かな友情関係を築いていこうとする道徳的実践意欲を培う。 |
| 9 | 郷土の発展に努める | C-(16) | アップルロード作戦 | 多くの困難に立ち向かいながらもがらりと並木をつくり、受け継いでいく飯田東中学校の生徒たちの思いについて考えることを通して、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員として進んで郷土の発展に努める道徳的実践意欲を培う。 |
| | 家族の深い絆 | C-(14) | 三六五十四回のありがとう | 佐江子さんとお母さんとの関係やそれぞれの思いについて考えることを通して、愛し合い、支え合う家族の絆の大切さを感じ、家族に対して感謝と尊敬の念をもって敬愛する道徳的心情を育む。 |
| | 信頼の絆 | B-(6) | パラリンピックを駆け抜けた「きずな」一迫下里 | 道下さんと青山さんのような思いで言葉を交わし、どのように「きずな」を深めていったかを考えることを通して、友情の尊さに気づき、悩みや苦痛を乗り越えながら、友達や仲間と信頼で結ばれた関係を築いていこうとする道徳的実践意欲を培う。 |
| | | - | 前期の自分を振り返り今後を考える | 前期の自分を振り返り今後を考える |
| 10 | 住みよい社会の実現 | C-(10) | 島耕作 ある朝の出来事 | 朝の職員電車での出来事について、さまざまな人々の視点から考えることを通して、公共の場で、他者への配慮と互いの立場や考えを尊重した言動が大切であることに気づき、公徳を重んじ、住みよい社会をつくっていくこととする道徳的実践意欲を培う。 |
| | 良心の声 | D-(22) | 銀色のシャープペンシル | 本当のことを言い出すことができず畏縮する「僕」の心の動きについて考えることを通して、自己の弱さや穢さや向き合い、それらに打ち勝つ良心の声があることに気づき、よりよく生きる喜びを見いだそうとする道徳的実践意欲を培う。 |
| | 働くことの意義 | C-(13) | 時雨二八五口、千三百人を乗せて。 | 新幹線運転士になるまでの厳しい訓練を乗り越え、日々責任ある仕事に従事する藤田さんの姿を通して、それぞれの仕事には重みと充実感の両方があることに気づき、勤労の意義について考えようとする道徳的実践意欲を培う。 |
| | 社会参画と社会連帯 | C-(12) | 町内会デビュー | 町内会での共同作業に取り組んで感じたことや考えたことを共感的に理解することを通して、互いに助け合い、協力し合う社会連帯の大切さに気づき、社会参画の意義と社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努めようとする道徳的実践意欲を培う。 |
| 11 | 真理を探究する | A-(6) | 初めての実験—山中伸弥 | 研究者として新たな可能性を探求し続ける山中伸弥さんの生き方について考えることを通して、人間には答えの分からない「問題」の強い探究心があることに気づき、自らの好奇心や探究心を大切にして、真理を探究していこうとする道徳的実践意欲を培う。 |
| | 自己を向上させる | A-(3) | 木箱の中の鉛筆たち | 自分の才能を疑い落ち込んでいる筆者が、作曲家の父のちび筆が詰まった木箱から感じ取ったことを考えることを通して、才能は努力によっても得られることに気づき、個性を伸ばしていくことで充実した生き方を追求しようとする道徳的実践意欲を培う。 |
| | 人間が生きているということ | D-(19) | ふたりの子どもたちへ | 「私」が手紙に書いた、死の隣にいてもなお生き抜こうとする姿や子どもたちへの願いを通して、社会的な生命や精神的な生命と、人が人として生きていることの意味に気づき、日常生活や家族に感謝し、自他のかたがえのない生命を尊重する道徳的心情を育む。 |
| | 伝統文化の継承と発展 | C-(17) | 日本探しの旅 | さまざまな伝統と文化を例に「日本らしさ」について考えることを通して、伝統や文化の多様な側面と自国の文化への親しみや愛着の念などに気づき、伝統の継承と新しい文化の創造を通じて、よりよい社会の発展に貢献しようとする道徳的実践意欲を培う。 |
| 12 | 心の温かさ | B-(6) | 夜のくだもの屋 | くだもの屋の奥に込められたおじさん、おばさんの善意を知ったときの少女の思いを理解することを通して、相手を思いやり、助け合う心のよさに気づき、思いやりと感謝の念をもって他者と接し、人間愛の精神を深めていく道徳的心情を育む。 |
| | 自らの命を生きて | D-(19) | 語りかける目 | 母の遺骨を「ナベ」に入れ、語りかける少女の目に宿る思いについて考えることを通して、限りある生命のかたがえのなさを理解し、自他の生命を尊重しようとする道徳的実践意欲を養う。 |
| | 思いやりと感謝 | B-(6) | 旗 | バスチークのクラス旗を掲げて少女を励まそうとするクラスメートの思いと少女の思いを共感的に理解することを通して、思いやりの根拠にある心に気づき、思いやりの心をもって人と接し、絆を深めていこうとする道徳的実践意欲を培う。 |
| | 国際理解、国際貢献 | C-(18) | 国語ってどういうこと？ | 二つの作文のエッセイに対する自己の判断やその理由について考えることを通して、国際的視野に立って他国を理解することの大切さに気づき、日本人としての自覚をもって国際理解、国際貢献に努める道徳的実践意欲を培う。 |
| 1 | 自然環境に努める | D-(20) | あのハチドリのように—ワンガリ・マータイ | 破壊された自然を目にして立ち尽くすマータイさんの心情と決意について考えることを通して、自然環境を大切にすることの意義を理解し、自ら進んで自然の愛護に努める道徳的実践意欲を培う。 |
| | 感動する心 | D-(21) | ガジュマルの木 | 運命を覆うガジュマルの木に感服を受けたマサキの心を共感的に理解することを通して、美しいものや感動するものに感動する心に気づき、人間の力を越えたものに対する畏敬の念をもつ道徳的心情を育む。 |
| 2 | 家族の深い愛 | C-(14) | 美しい母の顔 | 嫌っていた母のやけどの跡ができた理由を知って、涙を流す「私」の心情を共感的に理解することを通して、自分を育み、成長を見守ってくれる家族の深い愛情に気づき、感謝と敬愛の念をもつ道徳的心情を育む。 |
| | 弱さを克服しようとする自分に恥じない生き方 | D-(22) | いつわりのバイオリン | ロビンからの手紙に込めるフランクの心情について考えることを通して、誰もがもっている人間らしいよさを認め、弱さに負けず自分に恥じない生き方を見いだそうとする道徳的実践意欲を培う。 |
| 3 | よりよい学校生活 | C-(16) | 二枚の写真 | 「二枚の写真」に込められた清や阿蓮生たち、学校の人々の思いについて考えることを通して、人々の心が一体となった学校によさに気づき、学校の一員としての自覚をもち、協力し合っよりよい学校生活をつくろうとする道徳的実践意欲を培う。 |
| | | すべて | SDGsの視点から振り返り | 今までの道徳での学びとSDGsとの関連を知ることを通して、各教材の各教科等との関連についての関心を高め、継続的な学びを促す。 |
| | | | | 1年間の自分を振り返り今後を考える |

| | | | |
|---------------------------|--|---------------------|----|
| 教科名 | | 年間授業時数 | 学年 |
| サイエンス | | 39 | 1 |
| 授業形態 | | 指導者名 | |
| 一斉授業・分割授業 (1学級を2講座で展開) | | 武下晃慎 加門敏弘 瀬部圭史 奥野晃司 | |

| | |
|---------------------------------|--|
| 目 標 | <p>科学が社会生活において果たしている役割に目を向け、実験・観察・数学的活動を通じて、科学的に調べる能力と態度を育てる。さらに、一人一人が自分の考えについて他者と討論することによって、探究すること、説明をすること、根拠付けをすることなど問題の解決や探究活動に必要なスキルを身に付け、学んだ知識と組み合わせて問題解決的な学習を取り入れることにより、科学的思考力や創造力を養う。</p> |
| 学習のねらい | <p>①英語によるサイエンスピック授業を通して知的好奇心を高める。 ②博物館連携授業を展開し、サイエンスインタープリターとしてのプレゼンテーション実習を行う。 ③論理的思考力を構成する様々な推論形式（ピアジェの形式的思考操作）を強化することによって、認知能力の促進・加速を図る。 ④グループやクラス全体の議論を通して十分な経験と反省をさせ、批判的思考、複眼的思考、分析的思考操作の方法を身に付ける。</p> |
| 評価の観点 | <p>①サイエンスプレゼンテーションに興味をもつ。 ②課題解決のために様々な解決方法を考えようとする態度が身に付いている。 ③課題を解決するために実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題解決に当たることができる。 ④形式的思考操作ができる。 ⑤他者の意見を論理的な思考によって判断し、その意見に対する自分の考えを持つことができる。 ⑥自分の意見を適切にまとめ、効果的な発表ができる。</p> |
| 先生からアドバイス (授業の受け方、ノートの取り方など) | <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業へ参加し、自ら学び、自ら表現する力を身に付けましょう。 ・答えが一つには決まらない課題がたくさん出てきます。柔軟な発想で様々な可能性をしっかりと考えましょう。 ・友だちとの議論を通して、批判的、複眼的、分析的に考え、自分の意見と自己決定力を持つようにしましょう。 ・グローバルで学習している言語技術の手法をサイエンスでも活用して、意見が言えたり、文章が書けたりするようになりましょう。 |

年間授業計画表（45分授業）

| 学期 | 月 | 学習内容 | 時数 | 学習のポイント |
|----|--------------|---|----|---|
| 前期 | 4 | ・CASE (CognitiveAcceleration throughScienceEducation) 【変わるものは何か】 (1) | 3 | ・様々な例を通して、「変数」「値」「関係」という言葉と概念を理解する。 |
| | 5 | 【2つの変数】 (2) | 3 | ・「入力変数」と「結果の変数」という言葉を使って2つの変数の間の関係が説明できるようにする。 |
| | 6 | 【どんな種類の関係か】 (3) | 3 | ・「2つの変数の間の関係の表し方」としてグラフを用いることができるようにする。 |
| | 7 | 【「公正な」テスト】 (4) | 3 | ・「思考練習」ができるようになることによって、実験の計画を立てる力を身に付ける。 |
| | 8 9 | 【転がるボール】 (5) | 3 | ・集合の考え方を導入し、ものをだんだん小さなグループに分けることができるようになる。 |
| 後期 | 10 | 【グループ分けをする】 (6) | 3 | ・カテゴリー化することが何の役に立つのかを理解する。 |
| | 11 | 【さらにグループ分けをする】 (7) | 3 | ・より複雑な分類ができるようにする。 |
| | 12 | 【歯車と比率】 (8) | 2 | ・比例性の概念とそれに伴う縮尺と比率の概念を理解する。 |
| | 1 | 【反比例性】 つりあいを保つ (9) | 2 | ・2つの変数の間に増減の逆関係があるものについて調査を行い、関係性を考える。 |
| | 2 | 【反比例性】 幹と枝 (10) | 2 | |
| | 3 | 【反比例性】 つりあいを保つ (11) | 2 | ・おもりの重さと支点からの距離を調べ、反比例性を導入する。 |
| | | 【反比例性】 電流、長さ、厚さ (12) | 2 | ・電流と抵抗の間の反比例性を調べ、反比例の概念を確立する。 |
| | | 【蓋然性】 豆のサンプリング (13・14) | 2 | ・母集団を代表するような標本集団に必要な標本数を調べ、標本抽出の初歩的な概念を持つ。 |
| | | 【組み合わせ】 選択枝 (15) | 2 | ・すべての場合の数の上げを行う。 |
| | | 【変数】 相互作用 (16) | 3 | ・酵母菌、鉄さびについての実験を通して、2つの「入力変数」が合わさって「結果の変数」が大きくなるような現象について考える。 |
| | 課題研究発表会に参加する | 1 | | |
| | 総時間数 | 39 | | |